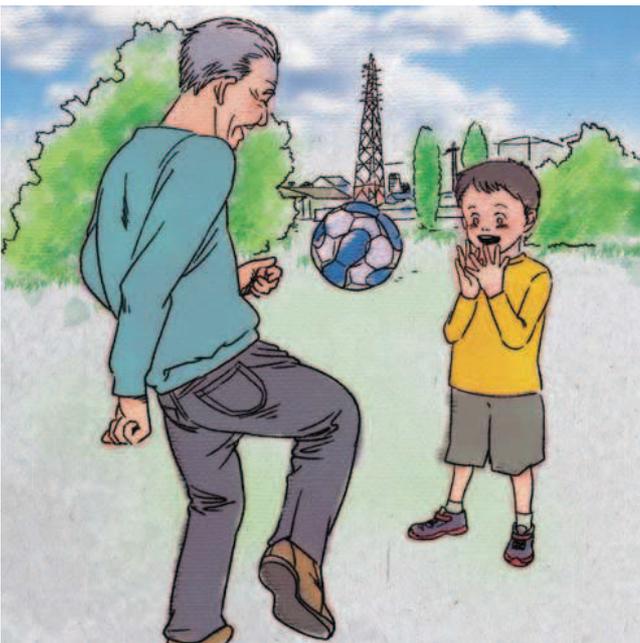


ベンチのおじいさん

ぼくたちの町には、自慢できる公園があり、人々のいいの場となっている。そこには花壇があり、季節ごとの花が植えられていて、心をなごませてくれる。中でもぼくたちの一番のお気に入りの場所は、芝生の広場である。そこでぼくたちは、毎日のようにサッカーを楽しんでいる。

暑い日も寒い日も学校が終わると、ぼくたちはこの公園に集まり、仲良くサッカーをしている。でも、楽しくサッカーをしても快く思わないことがある。それは、時々広場にあるベンチで、読書に没頭しているおじいさんのことである。おじいさんは、以前、低学年くらいの子とボールで遊んでいたことがあった。その時、すごく上手にリフティングをしていたので、ぼくたちの間では「サッカーが上手なおじいさん」と評判だった。

しかし、一週間ほど前、サッカーをしようと公園の中を急



いでいると、おじいさんが歩いていたので、

「こんにちは。」

と、後ろから元気よくあいさつをしたが、おじいさんは知らんぷり。ぼくたちのことは、知っているはずなのに、あいさつを返してくれないなんて、おとな気ない人だと思った。

ある日、ぼくたちは、サッカーの試合しあいに向け、いつもより練習にはげんでいた。その時、けりそこなったボールが大きくはずんで、本を読んでいるおじいさんの横の方に転がって行ってしまった。

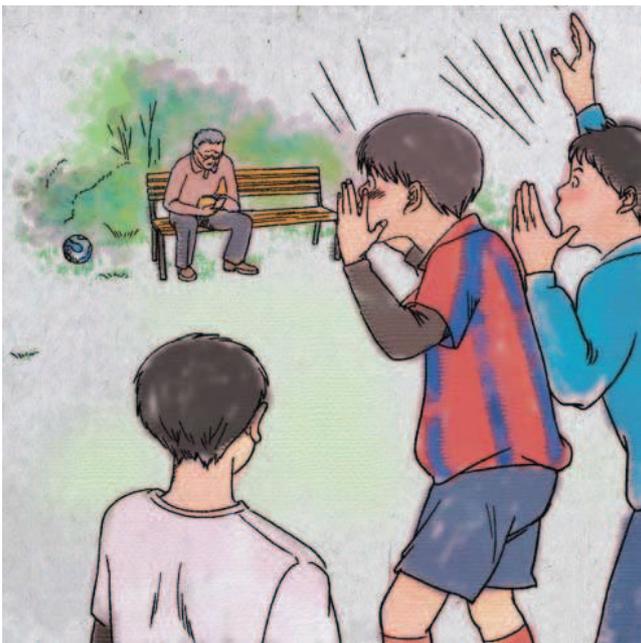
おじいさんにけり返してもらおうと思い、

「すみません。ボールを取ってください。」

と、遠くから大きな声でお願いねがをした。でも、おじいさんは読書に夢中むちゆうだった。聞こえなかったのかなと思って、もう一度、みんなで声をそろえ、

「ボールを取ってください。」

と、さげんだ。それでもおじいさんは、本から目を離はなさない。



「なんだよ、じいさん、なにも無視しなくてもいいじゃないか。」

「あのじいさん、すごくうまいのに。」

「ちよっとボールをけり返してくれればいいのに。」

と、友達と不満を言い合い、結局ぼくがボールを取りに行った。その時、おじいさんは、初めて気がついたようにぼくの方を見た。ぼくはボールを拾いながら、

「いじわるなじいさんだな。ああ、もうめんどうくさい。」

と、聞こえるように言い放って、おじいさんを無視して友達のところへ走って行った。

その日、ぼくたちが、練習を終えて帰ろうとしていたときだった。あのおじいさんがベンチから立とうとしたところ、何かにつまずいて転んだのが見えた。本当であれば……。

「大丈夫ですか。」

と、声をかけなければいけないのだが、さっきのことが頭をよぎり、足が前に出なかった。ぼくだけではない。だれ一人として助けに行こうとしなかった。ぼくたちはつい見て見ぬふりをして、足早に帰ってしまった。その時は、何となく気になったが、いつの間にかわすれてしまった。

その次の日からは、雨でサッカーができない日が続いた。

久しぶりの雨上がり、早くサッカーをしたくてうずうずしていたぼくは、自転車で公園までの道を急いでいた。公園の近くの曲がり角にさしかかった時、ぼくはバランスをくずした。

(危ない。)

と思うと同時に、だれかがぼくを抱きかかえ、起こそうとしていた。顔を見るとあのおじいさんだった。おじいさんは心配そうな顔で首をかしげながら、指を伸ばした右手を自分の左胸ひざねに当て、横に動かした。ぼくは、とっさに身ぶり手ぶりで「ありがとう」を伝えた。すると、おじいさんは、やさしいまなざしで何度もうなずいてくれた。そして、ぼくが自転車に乗って公園に向かおうとすると、にぎりしめた両手を上下に動かして笑顔えがおで見送ってくれた。

「そうだったのか……」。

公園に着いたぼくは、練習に来ていた友人たちに、おじいさんに助けてもらったことを話した。みんなも、何かを感じたようだった。

練習が終わって、しばらくの間、ぼくたちはおじいさんがいつも読書をしているベンチの横すわに座り、おじいさんが来るのを待っていた。しかし、おじいさんは公園に姿すがたを見せなかったので、しかたなく家に帰った。

ぼくは、家に帰ってすぐに、鉛筆とメモ用紙をサッカー用のかばんに入れた。

次の日、真っ先に公園に着いたぼくは、おじいさんをさがした。ぼくは、おじいさんに近づき、正面に立って、学校の授業で習った手話を使って、

「ありがとう。」

と、伝えた。そして、メモ用紙を取り出して、おじいさんに見せた。メモ用紙を見たおじいさん、おじいさんは、ぼくの顔を見て、目を細めながら、

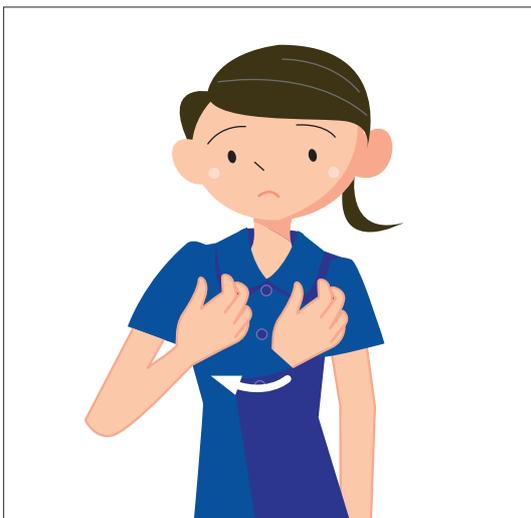
「ありがとう。」

と、返してくれた。

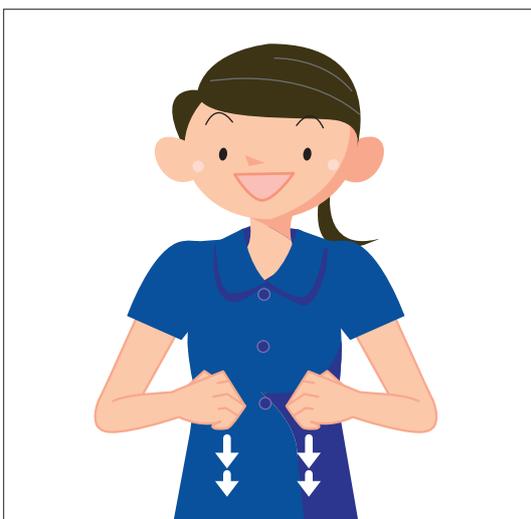
見上げると、雲一つない青空が広がっていた。



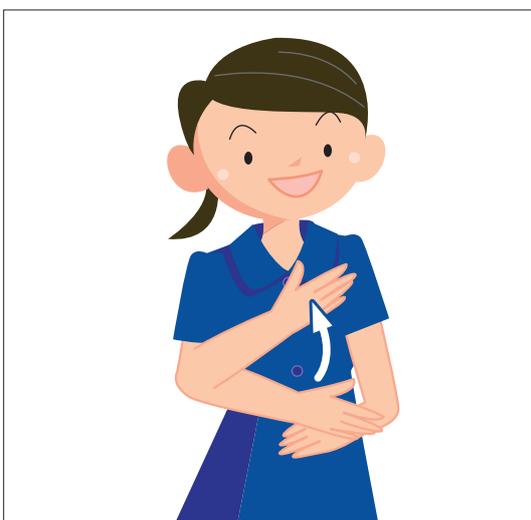
(参考)



だいじょうぶ
大丈夫？



がんばれ！



ありがとう